

小麦「びわほなみ」の栽培技術の習得支援 と収量の確保(3年間の足跡)

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

JA レーク伊吹管内では長年、小麦の品種は「農林 61 号」が栽培されてきましたが、製粉業者からの要望で、令和 6 年産から高収量が見込めかつ、製粉・製麺適性に優れる「びわほなみ」へと全面転換が図られました。

そこで当センターは、試験的な栽培が開始された令和 4 年産から、全面転換となる令和 6 年産までの 3 年間で、生産者が「びわほなみ」の特性に合わせた栽培管理を実践できるよう指導、助言を行いました。

【普及活動の内容】

(1)令和 4 年産では、試験栽培をされた 3 戸に対し、施肥時期、赤かび病の防除時期やその薬剤、収穫適期等の品種特性に応じた栽培技術の習得を支援しました。

(2)令和 5 年産では 24 戸が取り組まれました。排水対策、適期播種、施肥量、赤かび病防除、適期収穫に関する「麦作情報」を JA を通じて発信し、確実な栽培管理の実践を啓発しました。

また、定点調査ほ場で生育と収量の調査を行い、結果を令和 6 年産の栽培暦へ反映させました。

(3)令和 6 年産は、初めての栽培者が 34 戸と過半を占めるため、播種前の 8 月、施肥時期前の 2 月、赤かび病防除前の 3 月に JA と連携して研修会を開催し、施肥時期や除草剤の使用方法、赤かび病防除の徹底とその薬剤選定について重点的に指導しました。

【普及活動の成果】

令和 5 年産では、近江・米原地域の平均収量が 344kg/10a に達し、「農林 61 号」より約 120kg の増収となるなど栽培技術の習得が図られました。

令和 6 年産では、赤かび病が多発しましたが、多くの生産者が 3 回の防除を実施され、著しい品質低下を防ぐことができました。見直した栽培暦や情報紙に沿った栽培管理が実践された結果と言えます。



写真1 定点調査ほ場での研修会の様子

◎対象者の意見

「農林 61 号」より多収と感じますが、赤かび病に弱く防除回数が増えるなどの問題点も多く残されていますので、JA と共に継続した支援をお願いします。(法人の経営主)